

佐藤クリスタル

国際交流員コーナー

CIR's Corner

2026年6月 - 第48号



皆さん、こんにちは！江別市国際交流員の佐藤クリスタルです。「国際交流員コーナー」とは、私が毎月作成する国際交流や多文化についての記事です。様々な興味深い国際的なテーマを紹介します。

今月のテーマ：外来語と和製英語 第2章

2025年4月の「国際交流員コーナー」で、外来語と和製英語をいくつか紹介しました。まだまだ例はたくさんあるので、今月は第2章を書きます。英会話の授業でよく出てくる例と、デイビッド・バーカー著の「日本人がはまり

[がちな英語の落とし穴～自然な英語へのA to Z](#)という本からの例をいくつか紹介します。

ちなみに、この本は、和製英語だけではなく、日本人にとって様々な誤りやすい文法を分かりやすく解説するので、おすすめします。日本語版と英語版もあります。



○ ウェア

英語: clothes

英語で wear という単語がありますが、「洋服」の意味の名詞より、「着る」という意味の動詞として使うことが多いように感じます。例えば、「I wear a uniform to school」(私は学校に制服を着ていく)や「She is wearing a white shirt」(彼女は白いシャツを着ている。)

Formal wear, casual wear, beach wear のように特定の目的や用途に合わせた衣服を表す使い方もありますが、なんのためのウェアなのかを指定する形容詞を入れずに単に「洋服」と言うなら、clothes が正しい表現です。例えば、「I want to buy some new clothes」(新しい洋服を買いた

いです)「wear」ではありません。

ちなみに、clothes の発音は、「クローズ」や「クローゼズ」ではなく、「クローズ」に近いです。とても丁寧に、ゆっくり話す人は th をはっきり発音しますが、普通の速さでは「閉める」という意味の「close」と洋服の「clothes」はほぼ同じ発音になります。

○ ゴージャス

英語: fancy

日本語で「ゴージャス」というのは、「豪華」「高級」「派手」という意味です。例えば、「ゴージャスな食事」や「ゴージャスな服」などがありますね。

しかし、英語で「gorgeous」というのは、「美しい」「魅力的」という意味で、人、物、景色に使う言葉です。例えば、「gorgeous woman」(美しい女性)や「gorgeous sunset」(美しい夕日)などがあります。意味は「極めて美しい」だけで、「豪華」「高級」「派手」というニュアンスは全くありません。



左:日本語で「ゴージャスなバッグ」を検索した結果

右:英語で「gorgeous bag」を検索した結果

最近英会話で出てきた例を紹介します。生徒が「gorgeous bag」を言いました。私のイメージは洗練された上品な鞆ですが、その生徒が話していた鞆は、実は花柄でカラフルな派手な鞆でした。人によっ

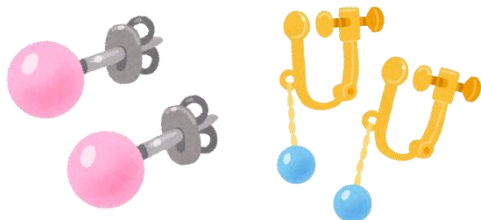
ては、それは美しいかもしれませんが、豪華な派手なものは必ずしも美しいというわけではないので、日本語の「ゴージャス」が言いたい場合、英語で「fancy」という単語の方が自然だと思います。

ちなみに、「drop-dead gorgeous」という表現があります。「drop-dead gorgeous」を直訳すると、「バタンと倒れて死ぬほど美しい」という意味になりますが、「目を奪うほど美しい」「ため息が出るほど美しい」と同じような意味です。とても魅力的で、自然な美しさや華やかさがあり、人を強く惹きつける女性に（最近は男性にも）使われます。「派手」というわけではなく、自然で上品な美しさが圧倒的というニュアンスがあります。日本の女優で例えると、綾瀬はるかや小雪だと思います。

○ ピアス

英語: earring(s)

英語の「pierce」は「貫く」という意味の動詞で、「耳に穴を開ける」という意味もあります。例えば、「I got my ears pierced when I was six years old」(6歳の時に耳に穴を開けました。)耳に付けるもの自体は「earring(s)」と言います。一つは「earring」、二つ以上は「earrings」です。



英語では両方「earrings」ですよ！

日本語では、「ピアス」は穴を通すタイプで、穴を通さずにクリップで耳たぶを挟むタイプを「イヤリング」と言いますが、英語では両方「earring(s)」です。しかし、細かく言うと、後者はたいてい「clip-on earrings」と言います。日本語を勉強し始めた頃、日本語では「ピアス」と「イヤリング」の違いが理解できませんでした。今でも日本語で話している時、間違っって私のピアスを「イヤリング」と呼んでしまうこともあります。

○ メンバー

英語: people

日本語では、「パーティーのメンバーはウィリアムとハリーです」のような文章は違和感がありません。しかし、英語では、「The party's members are William and Harry」というのは間違いです。なぜ

なら、英語の「member」という単語は、「会員制の組織の正式な会員」を指すことが多いからです。つまり、「member」は、何らかの形で入会手続きや登録が必要な組織やグループの人を意味します。パーティーのようなカジュアルな集まりは、会員制の組織ではないので、英語では「member」は使いません。



代わりに、「The people who are coming to the party are William and Harry」(パーティーに来る人たちはウィリアムとハリーです)という「people」を使った文章の方が自然ですが、少し長いですね。一番自然なのは、単純に「William and Harry are coming to the party」(ウィリアムとハリーはパーティーに行きます)だと思います。シンプル・イズ・ベストですね。

○ ライブ

英語: concert

英会話の授業の始まりに、必ず生徒に最近の出来事を聞きますが、「I went to a live」はよくあるミスですね。英語の live は「生きている」(例: live crabs)、「生放送の」(例: live broadcast)、「生演奏の」(例: live performance)という意味の形容詞で、名詞として使うことはできません。英語で「ライブ」を言いたい場合は、「concert」を使います。例えば、「I went to an Arashi concert」(嵐のライブに行きました。)

しかし、「concert」というのは、有名人の大きなライブやクラシックのコンサートのニュアンスがあります。日本のライブハウスで見るような小規模のライブは、「show」や「gig」と言います。例えば、「I went to my friend's gig」(友達のライブに行きました)や「My band played a show in Otaru」(私のバンドは小樽でライブをしました。)

なお、「ライブハウス」という言い方も英語にはありません。普通に bar や club などと表現します。

お問合せ先
教育部 生涯学習課 国際交流員
〒067-0074 北海道江別市高砂町 24-6
Tel: 011-381-1049 Fax: 011-382-3434